



東京大学からラポロアイヌネイションへ



# 6人の遺骨が55-132年ぶりに帰還

ラポロアイヌネイション  
 (旧称・浦幌アイヌ協会、  
 長根弘喜<sup>ながねひろき</sup>会長)は2020  
 年8月22日、東京大学との  
 裁判和解に基づき、長らく  
 同大学に持ち去られたまま  
 になっていた先祖6人の遺  
 骨の返還を受け、町営墓地  
 に再埋葬しました。

※

浦幌町内では、19世紀  
 から20世紀にかけて、東  
 京大学(1888年、  
 1965年)、北海道大学  
 (1934年)、札幌医科大学  
 (1974年、1979  
 年)が、「研究のため」と  
 称してアイヌ墓地などから  
 埋葬遺体を持ち去りまし  
 た。その数は、文部科学省  
 の調査結果によれば、計71  
 人(ほかに人数不明の遺骨  
 を納めた19箱)にのぼり、  
 長らく各大学に留め置かれ  
 たままになっていました。  
 ラポロアイヌネイション  
 は2014年から各大学を  
 相手どって裁判を提起し、  
 6年がかりですべての遺骨  
 の帰還を実現させました。

長根弘喜ラポロアイヌネイション会  
 長のごあいさつ(8月22日、浦幌町  
 営墓地での再埋葬を終えて)

みなさん、きょうはお忙しい中、  
 再埋葬、カムイノミに足を運んでく  
 ださい、本当にありがとうございます。  
 いま浦幌で分かっている範囲の  
 遺骨っていうのが、この東大の遺骨  
 でいちおう、最後まで戻ってきて、  
 なってます。その遺骨が戻ってきて、  
 きょう再埋葬できたことを、たいへ  
 んうれしく思っています。みなさん  
 も、ほんと、ご参加ありがとうございます。  
 いました。



Utaspano uoupekare 互いに支え合う 葛野辰次郎『キムスポV』より

北大開示文書研究会  
 ニューズレター

2020年10月9日発行

23

# 先祖が私たちの土地に眠ってくれませんか、それができたら、たいへん喜んでいきます。

ラポロアイヌネイション名誉会長 差間正樹 さしままさき

本日はカムイノミ、そして再埋葬、本当にごくろうさまでした。またきょうのためにお集まりいただきましたみなさま、本当にありがとうございます。浦幌の再埋葬は、分かっている限り、これで最後です。あしたのイチャルパ、まだ残っていますが、なんとか先祖が、私たちの土地に眠ってくれること、それができたら、たいへん喜んでいきます。

今後、サケの捕獲権のことやら、いろいろな問題、私たちにもやっぱり、いろいろな降りかかってくると思います。そのためには、私たちは集団で、みんなで立ち向かっていかなければなりません。

長根会長、丹野副会長、たいへんでしようけど、頑張ってください。私たちも、私も、一所懸命やってまいりますので、どうぞみなさん、全国のみなさんにも応援していただきたいなと思っています。

遺骨は全部……私たちが地元の人に帰すという方針で活動しておりますが、（北海道アイヌ協会は）そうではなくて、ウポポイ（国立民族共生象徴空間＝白老町）の中の集約施設、「慰霊施設」に埋葬すればいいのだ、という立場でやっているものですから、私たちの立場が、北海道アイヌ協会の中では、何ていう

んですかね、やっぱり、私たちの動きが疎んじられていくといんですか、そういった傾向がございます。

私も北海道アイヌ協会の監事という立場で活動しておりましたが、道アイヌ協会の役員自ら、「浦幌アイヌ協会の遺骨返還請求訴訟は）北海道アイヌ協会の方針にちよつと沿わない」ということで、まあいろいろありましたが、役員を解任——解任するというのかな、解任まではいかないんですけども、形の上では辞退ということで——そういうことになりました。

やはり私たちはあくまでも先祖を敬って、そのうえで私たちが暮らしていけるといいうんですか。私たちが先祖を大事にすることによって、私たち自身の生活が約束されるっていうんですかね。そういった考えで私はおります。

こうやってわれわれの遺骨が北大、それから札幌医大、そして今度の東大、こういうふうに戻還されてみると、こういった動きっていうのは、実は可能なんだな、そして、他の地区にも影響を与えていければ、な、という思いでいます。

今後ですね、北海道の各地から遺骨返還の動きが出てくるとすれば、私たちの動きもそれなりに北海道の





アイヌのために役に立つのだなど、私、思っておりませうけれども。

やっぱり、遺骨返還、これは、やってみると、今はできておりますけれど、実はたいへんな道のりだったんだなあという思いもしてきます。今後ともですね、北海道が、浦幌アイヌ協会、ラポロアイヌネイションのことを注目しているということで、私たちは今後とも活動していかなければと思っております。やはりこの動きは、決して浦幌だけではない。全道各地に広がっていくんだなということで、私は期待しております。みなさんもうぞそのつもりで、今後とも頑張っていきたいと思います。

2020年8月22日夕、浦幌町浜厚内生活館でのスピーチ。記録〓北大開示文書研究会

### 東京大学からラポロアイヌネイションに帰還したご遺骨

お名前	発掘場所	発掘日	発掘者
不明（成人男性）	十勝国大津ウツナイ （十勝川河口） 現浦幌町ウツナイ	1888年8月17日	こがねいよしきよ 小金井良精教授
不明（成人男性）			
不明（成人男性）			
不明（成人男性）			
不明（成人男性）			
不明（成人）	浦幌町十勝太	1965年	渡辺仁教授

# 本当の共生社会はどうすれば実現できるのか。 アイヌと世界各地の先住民族の今を通して考える。

アイヌの権利とは何か

新法・象徴空間・東京五輪と先住民族

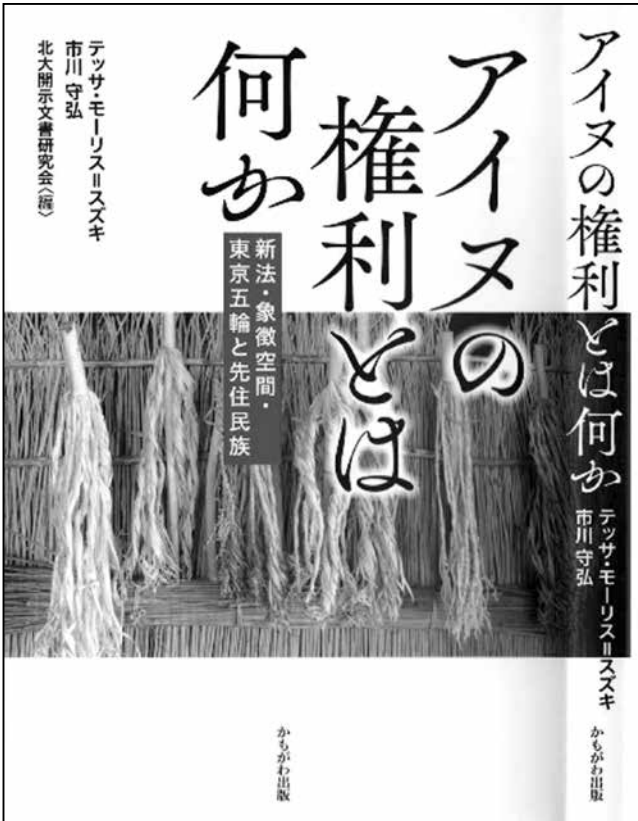
テッサ・モーリス＝スズキ／市川守弘ほか著

北大開示文書研究会・編

かもがわ出版 2020年7月発行

四六判、200ページ、2000円＋税

ISBN 978-4-7803-1100-6 C0031



## もくじ

はじめに	殿平善彦
演出された民族共生	テッサ・モーリス＝スズキ
世界の先住民族とアイヌ	テッサ・モーリス＝スズキ
「共生の五輪」と先住権	テッサ・モーリス＝スズキ
父から子へ受け継ぐ	葛野次雄
樺太アイヌの「戦後」	檀木貴美子
先住民族として生きる	差間正樹
アイヌ先住権の本質	市川守弘
「人間として生きる権利」の回復を求めて——結びに	清水裕二

Utaspano uoupekare 互いに支え合う 葛野辰次郎『キムスポ V』より  
 北大開示文書研究会ニューズレター No.23 2020年10月9日  
 編集・発行 北大開示文書研究会  
 共同代表 清水裕二、殿平善彦  
 事務局 〒077-0032 北海道留萌市宮園町 3-39-8 (三浦忠雄方)  
 FAX 0164-43-0128 <http://hmjk.world.coocan.jp>  
 ロゴデザイン 浅野由美子 写真提供 平田剛士